沖縄県教員採用試験

対策ポイント（2 次試験篇）

令和 6 年度の教員採用試験に、大学での対策のみで現役合格（高校・国語）した TA が、試験を乗り越えるために行った対策や心掛けたポイントをご紹介します。2 次試験編では、模擬授業や面接・場面指導に向けての対策方法をまとめました。あくまで筆者自身が行った対策ですので、参考までにご覧ください。

① 面接官にもわかりやすい模擬授業

自分の頭で緻密に考えていても、面接官に伝わらなければ意味がありません。また、試験での模擬授業には生徒がいないため、面接官に授業風景をどのように想像させるのかという点も考えどころです。質の高さはもちろんですが、初めて授業を見る面接官でも、課題のポイントを押さえていることがわかるような工夫を心掛けましょう。

例）

・単元名やこれまでの流れを紙板書、板書等で明示する。

・もしマイナーな教材を選ぶ場合は、内容が面接官に伝わるような構成に。

（定番教材はよく知られている分、ハードルが高くなるというデメリットも…）

・模擬授業での発言中に、前時までの学習活動や作品のあらすじを織りこむ。

・生徒のリアクションは、復唱したり紙板書を貼ったりして強調して表現する。

→生徒はいないが、「今の意見はとてもいいね！」や「他の皆もうなずいているね。」のように、生徒の回答に対するリアクションもきちんと行うと良い。

②教員として大事にしたい軸を決める！

教員としてどのような授業を行いたいか、大事にしたい事は何か考え、目指す教員像の軸を決めます。この軸を決めておくことで、模擬授業や場面指導での振る舞い、質問への回答においても方向性を考えやすくなります。面接官にとっても、振る舞いや回答に一貫した方向性を持っている方が、印象に残りやすく、有言実行の姿勢を理解してもらえるのではないでしょうか。以下に軸の考え方の例をいくつか挙げます。

例）

・これまでの自分の経験から考える。
私は小学校でのボランティアやこれまでの模擬授業での経験をもとに、以下の 2 つの軸を考えました。
①生徒が心身共に安心して通える場所にすること
②生徒の疑問や気づきから主体的な教育活動を展開すること

・国や県が出している教育施策の資料を参考に考える。
近年の教育課題やニーズを把握することが出来るため、時勢を反映した軸を考えやすくなる。

・二次試験で出題された課題を基に考える。
指導事項や指定範囲から、行うべき内容、審査される観点をある程度読み取ることが可能。理想の模擬授業を行うために大事にすべき事は何か考える。

③場面指導はテンプレートを応用！

場面指導は毎年大きく異なるシチュエーションが出題されます。何が出題されても対応できるように、シチュエーションごとにジャンル分けをして、それぞれの大まかな対応の流れを想定しました。そうすることで、どのようなシチュエーションが出題されても、用意したテンプレートを応用して余裕をもって対応することが出来ます。

①保護者対応系：状況把握→不安への共感→学校側でも誠実に対応すること→これからも逐一連絡すること
②全体への学級指導系：全体への状況説明→自分だったら？→今回の問題点は何か→今後どうすればよいか
③個別の生徒対応系：状況把握→寄り添う姿勢→生徒が今後どうしたいかを把握
④挨拶系：自己紹介→生徒・保護者への共感→目標→目標を達成するために

昨年度は「スマホ使用に関する学級指導」、今年度は「合理的な配慮が必要な生徒が在籍するクラス全体への話」というシチュエーションだったため、②の流れを応用しました。

最後に

2 回にわたって教員採用試験で行った対策のポイントについてご紹介しました。近年では一部の校種で大学推薦制度が始まりましたが、依然として大学生の受験者に不利な点も残っています。そのような中で、皆さんの試験対策をより効率的・効果的にする一助になれば幸いです。